花高同窓会会報

第127号

発行 令和6年3月1日

秋田県立花輪高等学校
同窓会事務局
〒018-5201 鹿角市花輪字明堂長根12
TEL0186-23-2126 FAX0186-23-2137
URL http://www.ink.or.jp/~hanakoudousou/

印刷 （株）北鹿新聞社

特集 花輪高校の後輩へ贈ることば

閉校に寄せて ～感謝、そしてエール～

小坂町教育長 **澤口 康夫**（二七期）

花輪高等学校同窓会報最終号に原稿を寄せる機会をいただき、深く感謝いたします。

私にとって、令和五年十月二十一日は永く記憶に刻まれる一日となりました。「閉校式典」「記念シンポジウム（歴史を創った花校アスリート）」「思い出を語る会」という三つの大きな出来事が凝縮された一日だったからです。その日私は、小坂町教育長と二七期卒業生という二つの立場で出席しました。久しぶりに校舎に入り当時を懐かしく思い出していました。G組で級友と過ごした日々、恩師の顔、花高祭や球技大会、仲間とフォークソングに夢中になったこと、そして、花輪七夕や花輪囃子に参加させていただいたこと、思い出せばきりがありません。貴重な三年間だったと思います。

当日の式典では、大正、昭和、平成、令和を経て、九十八年の歴史を刻んできた母校がその幕を下ろすことになったこと、令和六年四月から秋田県立鹿角高等学校として新たなスタートを切ること等の話がありました。また、「青垣山をめぐらせる～」の現校歌だけでなく、「十和田のみづうみ～」で始まる花輪高等女學校の校歌を初めて聴くことができ、感動感激の度合いも倍増でした。やはり校歌はいいものですね。

次のシンポジウムでは、世界を舞台に活躍した卒業生四人が、当時の思い出を語るとともに、世界での経験を踏まえて在校生にエールを送ってくれました。さらに、会場を移しての「思い出を語る会」では、全国各地から参集した卒業生たちが旧交を温め合い、和やかな時間を過ごすことができました。

あらためて、九十八年間学校を支えてくださった歴代校長先生や諸先生、OB、関係者の方々に敬意と感謝を申し上げます。また、花輪高校最後の卒業生となる皆さんにとって、母校の閉校は残念で寂しいことと思いますが、この校舎で頑張ってきた日々は、色あせることなく心に残り続けることでしょう。

閉校は次への一歩、卒業生としてのプライドを大切に、自分の夢や目標の実現と地域社会への貢献を胸に秘め、大きく飛躍してくださることを祈念して拙稿といたします。

▲康楽館演劇祭での実行委員長挨拶

襷を繋ぐ

'93世界陸上女子マラソン金メダリスト
'96アトランタオリンピック日本代表
浅利（髙橋）純子（四〇期）

春の息吹を感じられる今日のよき日に花輪高校を卒業される皆様、ご卒業おめでとうございます。卒業を迎えた今どんな気持ちでおられるでしょう。

皆様は三年前花輪高校に希望や夢を持って入学し、この三年間で心身共にとても立派に成長されたことと思います。勉強や部活動、課外活動など、新しい人間関係を築き、悩み考え多くのことを吸収しながら知識を蓄え充実感や達成感を味わえたのではないでしょうか。ただ楽しいことばかりではなく、辛いこともあったのではないかと思います。新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、様々な行事が中止や制限をうけ、思っていた成果が得られず目標を見失ってしまった日々もあったかもしれません。幸せと感じたことを経験し、辛かったことも乗り越えてきた皆様のまわりにはたくさんの人が支えてくれています。先生、家族、友人、地域の方…これまでのたくさんの時間や活動を共有してきました。きっとこれからも最大の味方であり最大の力となることでしょう。

わたしは花輪高校入学時、中学まで続けてきた陸上ではなくずっと憧れていた他の部に入部しようと思っておりました。その憧れの部の見学に向かおうとしていたときに陸上部の先輩が目の前に現れ、手を引っ張られ、どういう訳かそのまま陸上部員の一人になっていました。自分の意思ではなく入部させられたのです。辞めたくても辞められず嫌々な気持ちで過ごしていました。

その気持ちが少しずつ変わっていったのは入部した四月から七ヶ月がたった十一月の終わり

等、沢山の支援をしていただいたことを記憶しています。

そんな私がこれからの世界を担う皆さんにお伝えしたいのは、「人と違うことを楽しむ」「人とのつながりを大切にする」ということです。日本社会では、他人に迷惑をかけないことや周りに合わせることが良しとされがちですが、それではあなた自身の魅力が半減してしまいます。多様性を認め、それを他者に対しても寛容であることが今のグローバルスタンダードです。そして簡単に誰とでも繋がれる時代だからこそ、出会いを大切にしてほしいと思います。

花輪高校に通ったのは約二年間ですが、この礎があったからこそ、その後も外国と関わる仕事をし、異国で暮らす人生を過ごしているのだと思います。人生という旅の中でここで学べたことを誇りに感じていることを、最後の卒業生に向けての餞の言葉とさせていただきます。

後輩の皆様へ

県議会事務局
田中　寛幸（六二期）

秋田県立花輪高等学校の最後の卒業生の皆様、ご卒業おめでとうございます。歴史ある花輪高校からそれぞれの道へ羽ばたく皆様のご活躍に期待しています。また、在校生の皆様は、四月から「鹿角高校」に変わり、新たな伝統をスタートさせることに胸を躍らせていることと思います。

私が花輪高校を卒業してから十五年を迎えようとしています。朱鷺色の校舎で過ごした時間は大切なものです。先日、学校の前を通ると鹿角高校のスクールカラーである紫色に変わっており、当時とは違った雰囲気に少しだけ寂しさを感じました。振り返れば、私の学校生活は部活動のスキー一色の日々でした。練習に明け暮れ、目標を追いかけられる環境を提供していただき、サポートいただいたことに感謝の気持ちでいっぱいです。多くの方々からの有難い言葉や指導、全てが私の糧になっています。

会報のテーマが「贈る言葉」ですので、私から皆様にお伝えしたいことは、感謝の心を常に持ち続けていただきたいということです。人は想像より多くの人と関わりを持ち、支えられ今の自分がいるんだと、年齢を重ね考えるようになりました。感謝はエネルギーになります。恩返しがしたい、これが私の大きな原動力になっていることに間違いありません。恥ずかしながら、高校生の時の私は自分のことに精一杯で気がつけていませんでした。ぜひ、皆様には若い頃から些細な事にも感謝をし、心を燃やしていただきたいと思います。

多様性の時代と言われる昨今、幸せの形は人それぞれだと思います。大きな変革の時代を生きる皆様にそれぞれの幸せが続くことを心より願っています。花輪高校から鹿角高校へ変わっても、人の繋がりは消えません。むしろ、更に広がっていくものと期待しています。青垣山をめぐらせる鹿角の地で育った仲間として、今後ともよろしくお願いします。

▲ジャンプ台にて

修行のお話

寶珠寺　住職
佐々木　孝史（六四期）

花輪高校卒業生並びに新たに鹿角高校へ進学される皆様ご卒業ご入学誠におめでとうございます。私は当校を卒業後、駒沢大学へ進学、曹洞宗大本山永平寺での修行を経て実家のお寺を継ぎ住職としてお勤めさせて頂いております。

さて、皆様は「修行」と聞くとどの様なイメージを持つでしょうか。断食？火渡り？滝に打たれる？私は修行中そのような事をしたことはありません。修行とは「日々の『行』いを正しく『修』める」ことであります。では、正しく修めるとはどういう事でしょうか。それは一日一日を丁寧に大切に生きる事です。例えば、仕事をする時は仕事に専念する、勉強する時は勉強に集中する、友人と遊ぶ際はしっかり遊ぶ、食事の時は食事に、寝る時は睡眠に集中する等々です。一つ一つの行動と向き合い、丁寧に生きるとその生活全てが修行となり、心を穏やかにする一番の方法なのだと永平寺にて学びました。

私は永平寺での修行が始まった当初、坐禅をしていても掃除をしていても「面倒くさいな」「早く帰りたい」等々雑念ばかりでした。そう思っていると心は落ち着かず先輩和尚さんに怒られる日々でした。そんな私を見かねた先輩和尚さんが「お前は修行していない。一つ一つの事に専念する、一日一日を丁寧に大切に生きなさい。正しく修行すれば心も落ち着き、穏やかになる」と言葉をくれました。私はハッとし、言葉通り一つ一つを丁寧に大切に行うと、本当に心が穏やかになり気持ちが落ち着いたのです。それに気付いてからが本当の修行生活だったのだと思います。

これから卒業し進学・就職する皆様、また、鹿角高校へ入学し新たな環境で新たな友人・仲間とともに学生生活を始める皆様、新しい環境では緊張や不安、挫折、失敗など心が落ち着かない事が多々あるかと思います。そんな時こそ一つ一つを丁寧に大切に行ってみてください。正しい「修行」が皆さんを支えて救ってくれるはずです。皆様の諸縁吉祥、心願成就、無事安穏をご祈念申し上げお祝いの言葉とさせて頂きます。

▲大本山永平寺にて

のことでした。県の駅伝大会に男子チームが出場し、付き添いをしていたわたしの目の前で必死に襷を繋げていく姿でした。自分のため以上にチームのため仲間のために走る姿に感動したのです。それまで自分自身のことしか考えず、わがままな行動をしていたことを深く反省し前を向きました。必死に走る先輩たちの姿を思い出し集中して練習を続けました。結果は少しずつ上向き、実業団へ。オリンピックを目指す道へと進むことができました。

四月からは鹿角の三校が統合し新しく「鹿角高校」が生まれます。花輪、十和田、小坂高校から鹿角高校へと伝統の襷が繋がります。新しい歴史の一歩を在校生の皆様が作っていくのですね。

これからの新しい生活では、好きなこと・挑戦したいことを勇気を持って選択してください。そして、それぞれの未来に向かって大きく大きく羽ばたいてください。今後のご活躍を心よりお祈り致します。ご卒業、進級おめでとうございます。

▲東京オリンピックの聖火リレー

DREAMS COME TRUE♪

秋田県立花輪高等学校
首都圏同窓会「花栄会」副幹事長
髙杉　正（四一期）

花輪高校最後の卒業を迎えられた三年生の皆様、ご卒業おめでとうございます。そして四月から新しい鹿角高校生として進学を控えている在校生の皆様、新しい環境への期待と不安が入り混じっていることと思います。

私は高校を卒業してすぐに上京し、保育士の資格と幼稚園教諭免許を取って新宿区で働きだしました。今年で三十一年目。今は新宿区立保育園で副園長として働いています。高校時代、吹奏楽部に所属してトランペットを吹き、将来は音楽に携わる仕事をしたいという夢をもっていました。しかし、人生は自分の思うように進まず、気が付いたら小さな子どもの育ちを援助する保育の世界に飛び込んでいたのです。二十代～三十代は仕事と家庭が中心の生活でしたが、四十代になって久々にトランペットを吹く時間がもてました。その時に「鹿角ブラス!!」という花輪高校吹奏楽部のOB・OGを母体とした吹奏楽団を立ち上げ、首都圏のふるさと会や花高同窓会で演奏するようになりました。その後メンバーが増え、今では高校卒業してすぐの二十代から五十代まで、登録人数が三十名を超えました。先日は花輪高校閉校式「思い出を語る会」で地元の方と合同で「鹿角ブラス!!」の演奏を披露することができました。

十年間の活動で、たくさんの花輪高校の卒業生と出会いました。歴代の校長先生や恩師、女学校を卒業された方、定時制を出た方、自分の親の同級生、自分と同年代の方々、先輩、後輩等、現役時代には知り合えなかった様々な方と交流を深め、お話を伺い、花輪高校を卒業したことを誇りに思うようになりました。

生徒の皆さん、自分の夢に向かってそれぞれの道を歩み、存分に人生を楽しんでください。思うようにいかないときが必ずくると思いますが、そういうときこそ勇気をもって、あきらめないで目の前のことを一つ一つクリアしていってください。必ず、いつか何かの形で報われる時が来ます。そして全国にいる花輪高校を卒業した先輩諸氏が皆さんのことを見守っています。友を大切に。良き人生を。

▲鹿角ブラスの仲間とともに

出会いとつながりを大切に

ハンガリー・ショプロン市
第十二代日本語語学指導員
堀　縁（五四期）

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。また、保護者の皆様におかれましても門出に際してのお慶びを申し上げます。そして新たに鹿角高校に通われる在校生の皆さんにとっても花輪高校で過ごした日々が充実したものであったと思います。

現在私は、鹿角市の友好都市であるハンガリーのショプロン市で日本語語学指導員として働いており、主に日本語・文化の普及活動や鹿角市民向けの国際交流活動をしています。これまでに二十五か国以上に滞在・訪問する機会に恵まれてきましたが、そのきっかけとなったのは高校時代のドイツ留学であったことは間違いありません。

「グーテンターク（こんにちは）」すら知らないまま渡独しましたが、友人やホストファミリーにも恵まれ、あっという間の1年でした。当時はネット環境も悪く、その不便さ故にとても遠くに来てしまったのだと思うこともありました。また、同級生が送ってくれた修学旅行の写真を見ては羨ましく思う時もありましたが、彼らのそういった気遣いが無ければ外国で一人過ごす寂しさを乗り越えられなかったと信じています。同級生だけではなく、担任の先生からもロータリークラブ奨学金プログラムへの推薦状を書いていただく

▲日本語教室での授業風景

スキー激励式 〈事務局〉

一月に行われた全県総体スキー競技で、母校スキー部が活躍し、十四人の選手が富山インターハイに出場することになりました。また、成田絆君（三年）と海沼優月さん（一年）はジュニア世界選手権に出場することになりました。

一月二十六日に同窓会から選手並びに三人の顧問の先生方に激励金を贈呈しました。

激励式にはクロスカントリーとジャンプ・コンバインドの九人と世界ジュニアに出場の二人の計十一人と顧問の大森先生、浅利先生に来て頂きました。ジュニア世界選手権に出場する二人には、部活動後援会からも激励金の贈呈がありました。

いよいよ四月には学校が統合して鹿角高校になります。花輪高校としては本当に最後の全国大会になりますので、スキー部には大いに活躍してくれることを心から祈りました。

▲出場選手たち

▲激励式の様子

事務局だより

花輪高校は、令和６年４月に統合して鹿角高校になります。これに伴い、これまで花輪高校にあった同窓会本部が次のようになります。花輪高校同窓会に関する事での鹿角高校への連絡は差し控えて下さい。

会　　長　**関　　厚**（高 24 期）
〒018-5201　電話 0186-23-2125
鹿角市花輪字上花輪 344

幹 事 長　**山田　良志**（高 34 期）
〒018-5141　電話 0186-34-2320
鹿角市八幡平字夏井 73-3

事務局長　**山田　徹弘**（高 26 期）
〒018-5201　電話 0186-23-5270
鹿角市花輪字新田町 21-1

なお、同窓会報は今号で最終号となります。今後は花輪高校同窓会ホームページで情報提供を続けていきますので、そちらをご覧下さい。

総会開催のご案内

日時:令和6年5月17日㈮ 18:00～総　会
19:00～懇親会

場所 ホテル茅茹荘　**会費** 6,000円

申込 同窓会事務局 ☎0186-23-5270
Eメール spfe6mt9@polka.ocn.ne.jp
（事務局長　山田徹弘）

金曜日開催としました。 その時期になりましたら、案内をホームページ等に載せますので、お誘い合わせの上ご参加ください。

▲令和５年度同窓会総会の様子

和だんだん四季

吉村 アイ（一九期）

花輪の六日町には明治時代に建てられた雪国独自の「こもせ」を持つ商家が二軒ある。一軒は個人が所有し、もう一軒の旧関善商店（国登録有形文化財）はＮＰＯが観光拠点として保存活用に取り組んでいる。

安政三年に創業された旧関善商店は、地元でいう「おっきがた」である。三代目は秋田県議会議員であり、移転前の花輪高等女学校建設にあたり、関善所有の土地を無償で提供している。また、明治三十八年の花輪大火の際は、資材を投げ打って町の復興に協力している。

今年の正月に起きた能登半島地震の救済にあたり、多くの国民の支援の輪が広がっているが、どこよりも誰よりも「おっきがた」である国がリーダーシップをとり、早急な支援により、一日でも早く日常を取り戻せることを願っている。